



市浦ハウジング&プランニング叢書

英国住宅物語

—近代のハウジングはどのようにつくられてきたか—



佐藤 健正

はじめに

世界に先駆けて産業革命を遂行したイギリスは、近代の住宅問題に最も早くから取り組み、住まい・まちづくりをすすめてきた永い歴史を持つ。その永い歴史を通じて、イギリスは世界第一級の住居水準を築き上げてきた。成功も失敗も含めて、我々がイギリスのハウジングの歴史に学ぶべき点は決して少なくない。

この『英国住宅物語—近代のハウジングはどのようにつくられてきたか—』では、イギリスという国、イギリスの人々が、どのように「ハウジング」に取り組んできたか、住まいやまちがどのようにつくられてきたかについて、語っていききたい。

注) この『イギリス住宅物語』は、2009年に集合住宅研究会で行った短期連続講座『イギリスのハウジングを巡る旅』で用いたテキストに加筆修正を加えたものである。
なお文中の写真は、出典を明記したもの以外は筆者の撮影によるものである。

もくじ

はじめに

- 第1話 17-19世紀のタウンハウス・スクエア開発ーイギリスの伝統的都市住居様式の成立ー 1
- (1) ロンドンにおけるエステート開発の進展 (2) 「都市を造る住居」ータウンハウスの特徴とその魅力
(3) ガーデン・スクエアー都会のなかの田園 (4) 19世紀ロンドンに生じた変化ー居住地の階層分離、職住の分離
(5) イギリス各地のタウンハウスーバースのタウンハウス、チェスターのタウンハウス、ブライトンのブランズウィック・タウン、ロンドンのアーツ&クラフツ・ハウス、リージェンツ・パークのタウンハウス (6) マンション・ブロックの登場
- 第2話 近代ハウジングの原点ー公衆衛生法と労働者階級の住宅改善ー 13
- (1) 19世紀イギリス労働者階級の状態ー過密居住とスラムの形成、汚濁の40年代 (2) ビクトリア朝の労働者の住まい、背割り長屋(バック・トゥ・バック)住宅 (3) 世界初の公衆衛生法、住居法の成立とその展開ーハウジングという概念の成立 (4) 1975年公衆衛生法の成果ー条例住宅地の拡大 (5) 慈善的住宅改良運動とモデル住宅建設ー民間非営利組織の取り組み、家族のためのモデル住宅(ストレスサム通り)、コロンビア通りのモデル住宅、ピーボディ・トラストのモデル住宅建設、ギネス・トラストによる住宅建設、モデル住宅会社による住宅建設 (6) 住宅管理の先駆者、オクタヴィア・ヒルの足跡ースラムと貧困層の居住改善への取り組み、パラダイス・プレース、レッドクロス・ウェイ (7) ロンドン州議会(LCC)の取り組みー公営住宅建設の開始、バウンダリー・ストリート、ミルバンク、ブルース・ハウス
- 第3話 イギリス近代のユートピアモデルーニュー・ラナークから田園都市までー 27
- (1) ロバート・オーウェンのユートピアーニュー・ラナークの実験と理想共同体の提案 (2) モデル工業ビレッジー博愛主義資本家によるユートピア建設、ソルテア、ボーンビル、ポート・サンライト (3) 中流階層の夢ー都市における田園生活の実現、ウィリアム・モリスとアーツ&クラフツ運動、レッドハウス (4) ベッドフォード・パークーイギリス初の田園郊外 (5) ブレンサム田園郊外ーパートナーシップのまちづくり第1号 (6) E.ハワードの田園都市論ー真の改革に至る平和な途 (7) 実現した田園都市ーレッチワースとウェルウィン・ガーデンシティ、(7) ハムステッド田園郊外ー「芸術」としての住まい・まちづくり (8) 1909年住宅・都市計画法ーイギリス都市計画法の精神
- 第4話 戦間期のハウジングー二戸建のロンドンー 43
- (1) 「英雄にふさわしい住宅を」ー本格的な公営住宅供給の時代の開幕 (2) ロンドン州議会による郊外開発、ウェルホール団地、コテージ団地、ベコンツリー団地 (3) マンチェスターの衛星都市建設、ウィゼンショウ (4) 都市再開発(スラムクリアランス)への方向転換、チャイナ・ウォーク、オサルストン団地 (5) 近代ハウジングの萌芽(その1)ーハムステッドのモダン・ハウス、イソコン・フラット、フログナル、サンハウス、ウィロウ・ロード (6) 近代ハウジングの萌芽(その2)ー新たな集合住宅の登場、ケンザル・ハウス、ケント・ハウス、プルマン・コート、ハイポイント (7) 「メロランド」ロンドンーリボン状開発の進展、郊外の膨張
- 第5話 第二次世界大戦後のハウジングーマスハウジングの時代ー 53
- (1) 戦後の住宅建設 (2) 近代ハウジング様式の導入ー戦後初期の試み、ウッドベリー・ダウン団地、チャーチル・ガーデンズ、ランズベリー団地 (3) 1950年代初期のLCCハウジング、アクロイドン団地、オルトン・イースト団地 (4) 公園のなかのタワー「垂直田園都市」の出現、ホールフィールド団地、ラフバラ・ロード団地、オルトン・ウェスト団地、バービカン地区 (5) スラムクリアランスへの転換と工業化、高層化の進展ー大量生産品としての住まい、アイルズベリー団地、ブランドン団地、ウェアウィック団地、タワー・ハムレッツ・ボウ地区 (6) メガストラクチャーへの展開、パークヒル、ロビンフッド・ガーデンズ、チョークヒル団地、ペピーズ団地、バタシー地区のハウジング、ノース・ペッカム団地、マンチエスター・ヒューム、ブランズウィック・センター、テムズミード (7) 近代建築の失敗と住宅政策の失敗

第6話	ハウジングの方向転換 — 「脱近代」 への試み —	73
	(1) 都市の文脈の尊重—地域の個性と伝統様式の継承・発展、リントン・ガーデンズ、セントマークス・ロード、エセックス州のデザインガイド、バジルドン・ノークブリッジ (2) 小集団開発—ヒューマンスケールの尊重、クライスト・チャーチ団地、オダムス・ウォーク (3) 低層高密開発への移行、ハイゲート・ニュータウン、アレクサンドラ・ロード、メイデン・レーン、セントラル・ヒル、セッチェル・ロード (4) 民間非営利セクターの復活—住宅協会(Housing Association)の活動、エンズレー・ガーデンズ、キリック・ストリート、アバディーン・パーク、マザーズ・スクエア、ザ・ジャーマン・ホスピタル、ヴェスパン・ロード (5) コミュニティ・アーキテクチャの誕生、ニューキャッスル・バイカー、リービュー・ハウス (6) コイン・ストリートからの挑戦—「もう一つの途」、コミュニティ企業によるまちづくり	
第7話	団地再生の時代 — マスハウジングの修復と再生 —	87
	(1) パブリック・ハウジングの危機 (2) ユートピアへの審判—アリス・コールマンの近代ハウジング批判とデザイン改善の実践、モーツァルト団地、ランウェル・ロード (3) 人間のスケールの回復—高層建築、巨大建築の解体と修復、パーミンガム・キャッスル・ヴェイル団地、チョークヒル団地、ストーンブリッジ団地 (4) スーパーブロックの解体、伝統的な街路網と小街区の再生、マンチェスター・ヒューム地区の再生、ホリー・ストリート団地、マーキス団地 (5) 街路建築の再生・アクセス形式の改善—エンジェルタウンでの試み (6) ラドバーン・レイアウトの改善、マンチェスター・プリモス・グローブ団地 (7) コミュニティのバランスと持続可能性の創出、トロウブリッジ団地、セントラル・オークリッジ団地	
第8話	次世代ハウジングへの取り組み — アーバン・ルネッサンスへ —	109
	(1) チャールズ皇太子とアーバンビレッジ運動、パウンドベリー、クラウンストリートの再生、アンコーツ・アーバンビレッジ (2) イギリス政府のミレニアム・コミュニティズ・プログラム、グリニッジ・ミレニアム・ビレッジ、ニューイズリントン・ミレニアム・コミュニティ (3) イングリッシュ・パートナーシップスの取り組み—ニューホールのハウジング (4) イギリス政府のアーバンデザイン政策	
おわりに	120
参考文献	121



イギリスの主要都市